

## 県内経済は緩やかな回復の動きを 続けているものの足取りは鈍化

### 1. 平成19年10月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は7ヵ月連続で前年を下回り、乗用車販売台数は主力の中小型乗用車が下げ止まったものの軽自動車が高調となり全体では5ヵ月連続で前年を下回るなど消費は総じてやや減少の動きとなっている。生産活動は、一般機械、精密機械などの業種を中心として増勢基調で推移している。雇用動向は有効求人倍率が伸び悩んで一進一退、投資動向は、国、県および独立行政法人からの発注減により前年を下回り、新設住宅着工戸数についても7ヵ月連続で前年を下回るなど低調に推移している。

以上のことから、生産活動は増加基調で推移しているが、雇用情勢は一進一退、住宅建築、設備投資および公共工事などの減少とともに原油価格高騰などの影響から、県内経済は緩やかな回復の動きを続けているものの足取りは鈍化している。

〔消費動向〕 やや減少：大型小売店販売額（全店舗）は婦人・子供服などの衣料品やバッグ、アクセサリ、履物などの身の回り品などが低調に推移し7ヵ月連続で前年を下回った。乗用車販売台数は、主力の中小型乗用車は下げ止まったが大型乗用車を始め、軽乗用車が高調な動きで前年を下回った。消費者物価指数は、前月比および前年比でともに上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、携帯電話などは堅調、パソコン、ビデオカメラ、DVDレコーダーなどはやや低調に推移した。ホームセンターは、DIY用品や植物・園芸用品などが伸び前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、国内個人、国内団体、海外個人旅行が伸び悩み前年をやや下回った。以上のことから、消費は総じてやや減少で推移している。

〔投資動向〕 減少：公共工事前払取扱保証請負金額は国、県および独立行政法人の発注減により前年を下回った。9月の建設着工棟数（民間・非居住用）は6ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、改正建築基準法などの影響もあり7ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動〕 増加基調：9月の鉱工業生産指数は109.9（季節調整済指数）で4ヵ月ぶりに前月比1.6%低下し、前年比では2.0%（原指数）の上昇となった。大口電力販売量は前年を上回っており（前年比6.9%増）、生産活動は増加基調で推移している。

〔企業倒産〕 悪化：倒産状況は、倒産件数が再び2桁台になり、倒産金額も前月比では減少したものの依然高止まりの金額となった。1月からの累計倒産金額ならびに累計倒産件数は10月時点で昨年と同様の金額・件数をともに上回る悪化基調で推移している。

〔金融動向〕 横這い：9月の預金は前年をやや上回ったが貸出金は前年を下回る水準で推移した。

〔雇用動向〕 横這い：新規求人数、新規求人倍率はともに前年を上回った。有効求人倍率は変らなかった。

県内経済動向の概要

	項 目	8 月		9 月		10 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	→	↗	↘	↘	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↘	↘	→	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	→	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↘	↘	↘	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↘	↘	↘	→	-	-
	新設住宅着工戸数	↘	↘	↘	↗	↘	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	→	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数	↘	↘	↘	↘	↗	↗
	企業倒産金額	↗	↗	↘	↘	↗	↗
金融動向	預 金	↗	→	↗	→	-	-
	貸 出 金	↘	↘	↘	↗	-	-
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	→	↗	→	→	→	→
	新規求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	→	↘	→	→

良化 ↗      良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨      悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨      悪化 ↘  
 注1：季節調整済。      注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

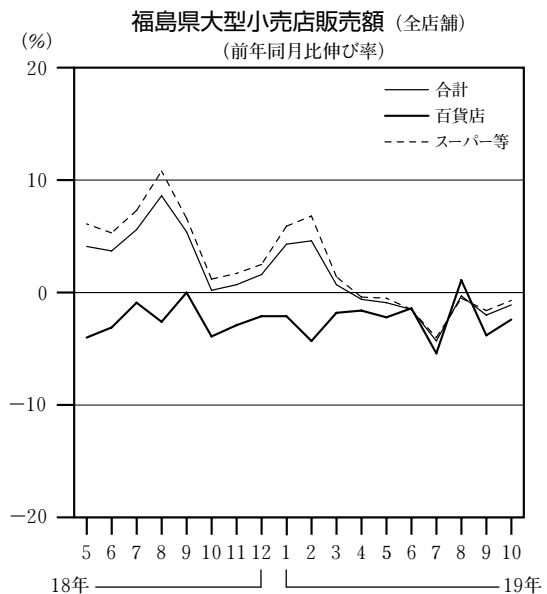
— 消費動向 —

**大型小売店** 10月の県内大型小売店の販売額は、婦人・子供服などの衣料品、バッグ・アクセサリ・履物類などの身の回り品および化粧品などが低調に推移し全店舗ベースで184億70百万円（前年同月比1.1%減）となり7ヵ月連続で前年を下回った。また、既存店ベースでも、同1.6%減となり2ヵ月連続で前年を下回った。業態別に内訳をみると百貨店は、紳士服を中心とした衣料品や飲食料品などは好調だったが身の回り品などが振るわず合計では35億35百万円（同2.4%減）となり2ヵ月連続で前年を下回った。スーパーは、主力の飲食料品は好調だったが衣料品、家庭用品などが低調であったことから合計では149億35百万円（同0.7%減）となり7ヵ月連続で前年を下回った。

**乗用車販売** 10月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、主力の中小型乗用車は下げ止まったものの軽自動車が低調となり合計では5,331台（前

年同月比5.6%減）と5ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、大型乗用車が742台（同4.3%減）と10ヵ月連続で前年を下回った。中小型乗用車は2,809台（同1.2%増）となり前月まで24ヵ月連続で前年を下回っていたが一旦下げ止まった。一方、前月下げ止まった軽乗用車は1,780台（同15.2%減）と再び大幅な減少となった。

10月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義



（資料：経済産業省）

変更を含む)の合計では11,087台(前年同月比4.3%増)となり5ヵ月ぶりで前年を上回った。車種別にみると大型乗用車が3,177台(同2.6%増)、中小型乗用車が4,276台(同2.4%減)、軽乗用車が3,634台(同15.3%増)となった。

**消費者物価指数** 10月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)が101.4と前月比で0.2ポイント上昇し、前年同月比で0.8ポイント上昇した。

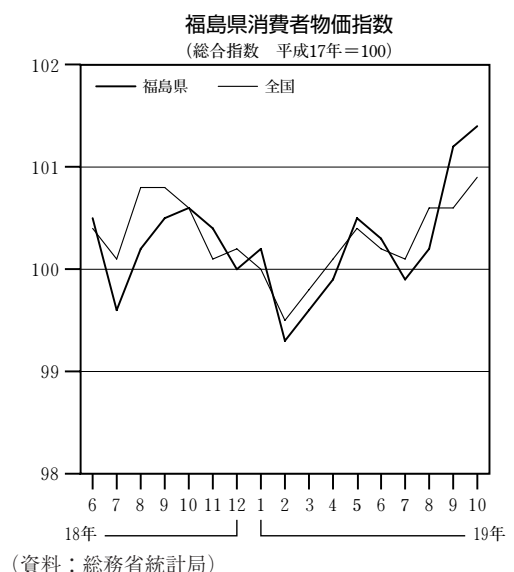
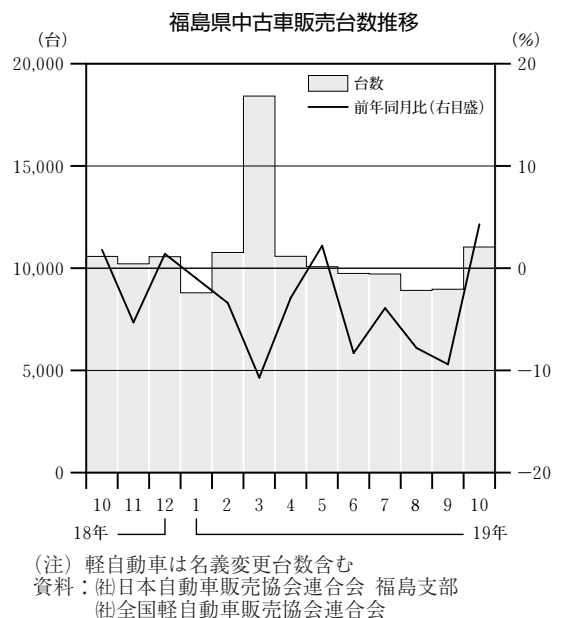
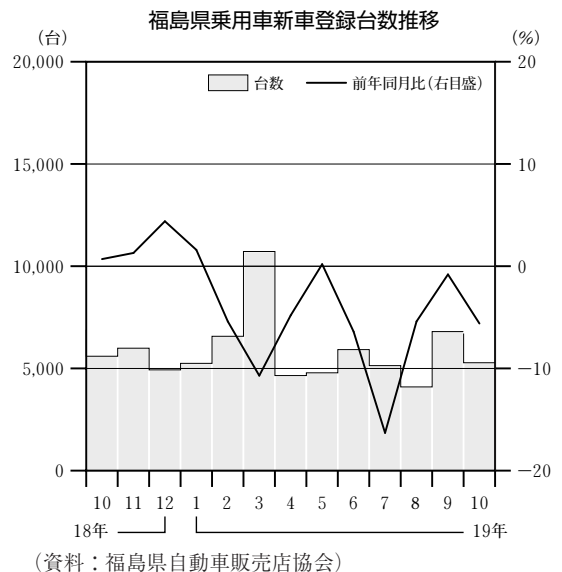
費目別の指数動向をみると、「食料」は102.5と前月比0.5ポイント、「被服及び履物」は106.8と同1.4ポイント、「光熱水道」は105.3と同0.3ポイント、「家具・家事用品」は97.4と同2.6ポイント、「保健医療」は98.4と同0.2ポイントそれぞれ上昇した。一方、「住居」は100.0と同0.4ポイント、「交通通信」は101.2と同0.1ポイント、「教養娯楽」は97.8と同0.3ポイントそれぞれ下降した。「教育」は101.3と前月比で変らなかった。

**家電量販店** 10月の売上は、薄型テレビ、携帯電話、デジタルカメラなどの販売が引き続き堅調に推移したがパソコン、ビデオカメラ、DVDレコーダーなどは前年をやや下回る水準で推移した。

**ホームセンター** 10月の売上は、植物・園芸用品やDIY商品にとって天候に恵まれたことから全体では前年をやや上回る水準で推移した。

**旅行** 10月の旅行取扱額実績のうち、海外団体は前年を上回ったが、国内個人、国内団体、海外個人は前年を下回ったことから全体の取扱額としては前年を下回った。

**高速道路** 10月の県内自動車道通過台数は3,845,417台(前年同月比1.3%増)となり7ヵ月連続で増加した。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)が2,330,272台(同2.3%増)、磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)が258,172台(同4.3%増)、磐越自動車道(磐梯熱海IC~西会津IC)が566,355台(同3.0%減)、常磐自動車道(いわき勿来IC~常磐富岡IC)が690,618



台（同0.6%増）となった。

**福島空港** 10月の福島空港国内便の利用状況は、札幌便が9,569人（前年同月比13.0%減）、大阪便が20,435人（同6.2%減）、沖縄便が6,344人（同0.5%減）となり、昨年9月に1日2便から1便体制となった名古屋便は1,259人（同63.7%減）となった。

国際便では、上海便が1,365人（同30.1%減）となり昨年11月に週5便から3便体制となったソウル便は6,068人（同46.3%増）となった。

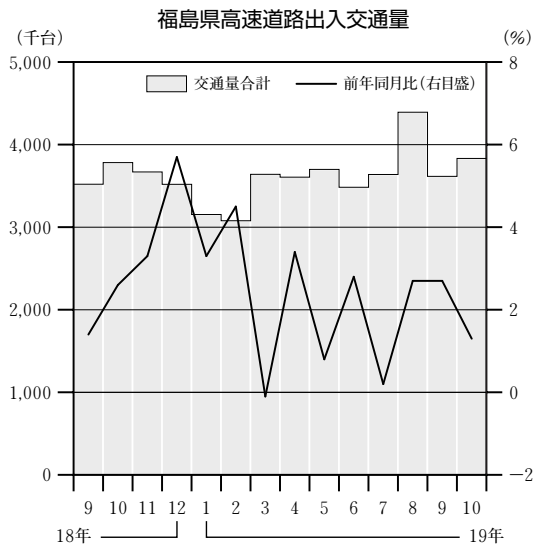
## — 投資動向 —

**公共工事** 10月の公共工事前払保証取扱は、県、国、および独立行政法人からの発注減により件数が612件（前年同月比18.0%減）、請負金額が176億82百万円（同2.4%減）、保証金額が68億30百万円（同14.1%減）となり、それぞれ3ヵ月連続で減少した。

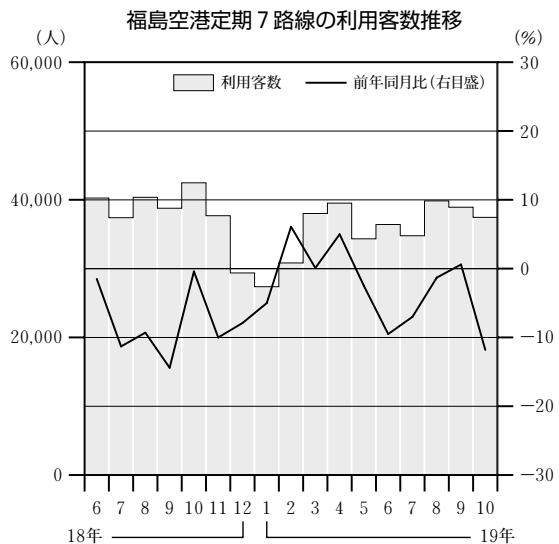
平成19年4月から10月までの累計で見ると件数が3,939件（同5.5%減）、請負金額が1,393億94百万円（同7.3%減）、保証金額が532億60百万円（同10.5%減）となった。発注者別に累計請負金額をみると、国が58億40百万円増加し189億64百万円（同44.5%増）となっている。反面、県は75億6百万円減少し514億63百万円（同12.7%減）、市町村は43億82百万円減少し576億16百万円（同7.1%減）となっている。

**設備投資** 9月の建築着工（民間・非居住用）の棟数は、130棟（前年同月比37.8%減）となり6ヵ月連続で減少した。床面積、工事費予定額についても床面積は、15,800㎡（同80.9%減）、工事費予定額は、18億46百万円（同80.1%減）と大幅な減少となり、それぞれ3ヵ月連続して減少した。

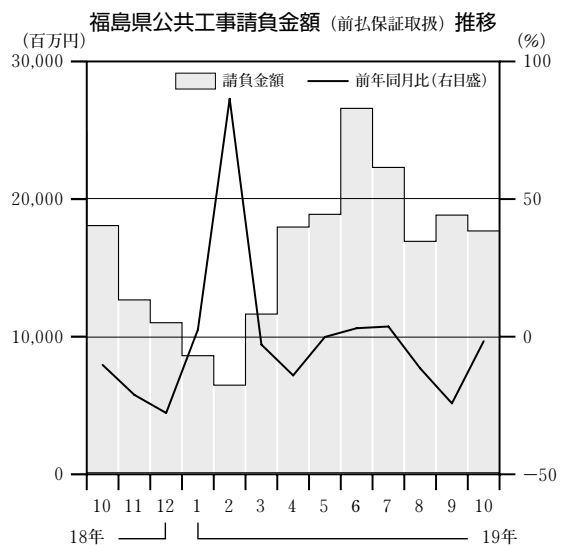
**住宅建設** 10月の県内新設住宅着工戸数は、947戸（前年同月比10.7%減）となり7ヵ月連続で減少した。利用関係別で見ると、持家は545戸（前



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)



(資料：福島空港ビル)



(資料：東日本建設業保証(株))

年同月比6.7%減)、貸家は359戸(同1.6%減)、分譲は41戸(同63.1%減)となった。着工戸数の減少については全国的な問題として改正建築基準法施行の影響なども指摘されている。

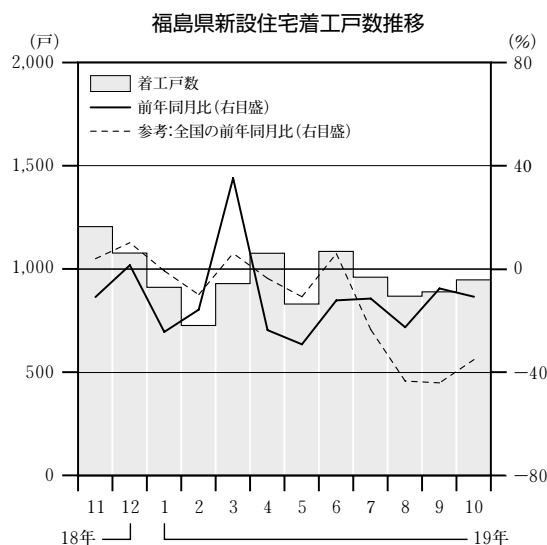
— 生産活動 —

**鉱工業生産指数** 9月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると前月比1.6%低下の109.9となり4ヵ月ぶりに低下した。また原指数は前年同月比2.0%上昇し111.0となった。

上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)は、一般機械工業が146.8(前月比9.6%増)、精密機械工業が100.4(同9.0%増)、非鉄金属工業が115.9(同4.3%増)となり8業種が上昇した。一方、パルプ・紙・紙加工品工業が107.6(同9.4%減)、プラスチック製品工業が110.8(同9.2%減)、情報通信機械工業が94.8(同7.2%減)、窯業・土石製品工業が75.4(同6.3%減)となり11業種が低下した。

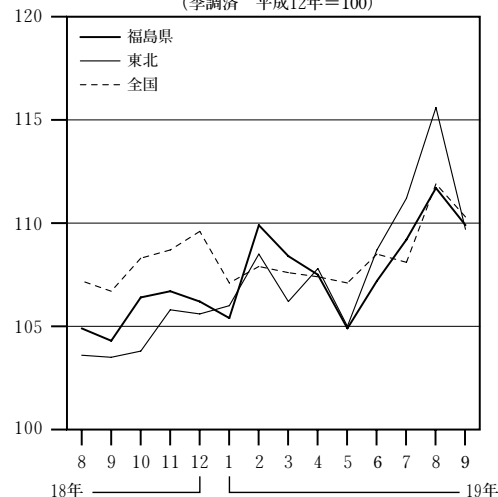
**化学** 10月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外の好調な受注を背景に前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維も電子部品向けを中心に堅調な生産が続いている。10月の酸化チタン(白色顔料、自動車用塗料向け)の生産は前年並みの水準で推移、バリウム化合物(電子部品原料)の生産は、液晶用塗料向けなどを中心にやや増加基調で推移している。

**鉄鋼・金属** 10月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材ならびに半導体向け電子材は前年並みの水準で推移した。10月のトラック用鋳造品の生産は、東南アジアや中南米向けなどの輸出が引き続き好調で前年同月を大きく上回った。建機用は、中国およびオーストラリア、中央アジア向けなど海外からの鉱物資源用受注により高水準の生産が続いている。車両用は、新幹線の更新需要、台湾、アメリカなどからの受注等に支えられ堅調に推移し



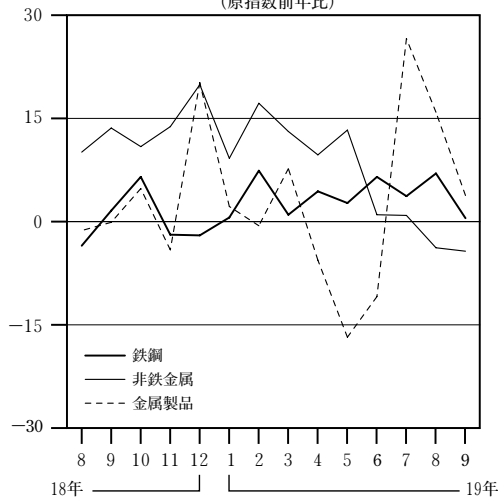
(資料：国土交通省)

福島県鉱工業生産指数 (全国、東北との比較) (季調整済 平成12年=100)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)

ている。陸上プラントおよび船舶用バルブ部品は、海外を中心に好調な受注に支えられ、前年同月を上回る高水準の生産が続いている。

**輸送用機械** 10月の自動車用オイルシールの生産は、北米等の海外向けが堅調だったことから前年をやや上回り推移した。ブレーキ部品の生産は、前年並みの水準で推移した。

**電気機械** 10月の変圧器、電熱炉の生産は、堅調な受注を背景に前年並みの水準で推移した。配電盤、自動車モーターの生産は、堅調な受注に支えられ前年を上回る水準で推移した。

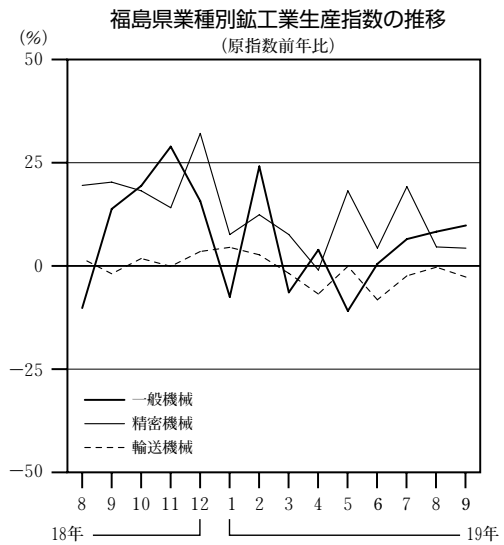
**情報通信機械** 10月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、インド、トルコなどからの好調な受注を背景に前年同月比大幅な増産となった。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。

**電子部品・デバイス** 10月のLSI（大規模集積回路）の生産は、産業機器、パソコン・OA向けが前年をやや下回ったが、主力のAV、ゲーム機、家電向けならびに車載品向けが堅調で特に携帯電話向けは前年を大きく上回ったことから全体としては前年をやや上回る水準で推移した。

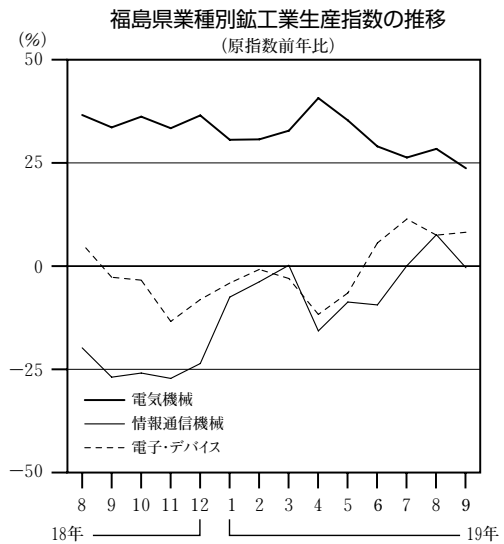
**精密機械** 10月の医療用内視鏡の生産は、新製品を中心に受注が好調で前年をやや上回る水準で推移した。10月のデジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外向けを中心に堅調な受注に支えられ、前年並みの水準で推移した。

**紙・紙加工品** 10月の段ボールの生産は、デジタル家電向けなどを中心に堅調な受注に支えられ、前年をやや上回る水準で推移した。感熱紙、ノーカーボン紙の生産は前年をやや下回る水準で推移した。インクジェット紙については前年をやや上回った。

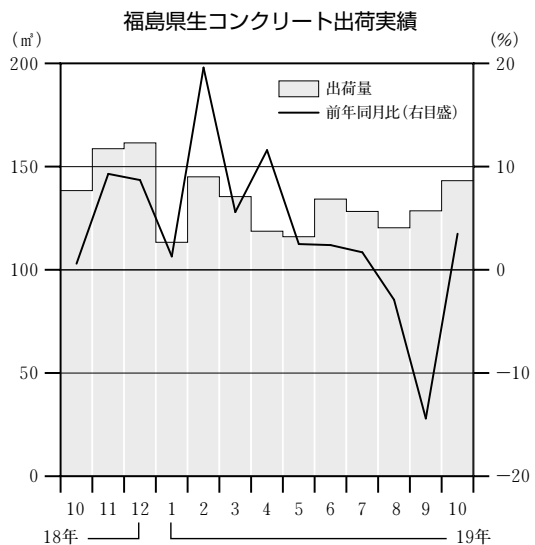
**窯業・土石** 10月の生コンクリート出荷量は143,694m<sup>3</sup>（前年同月比3.5%増）となり、3ヵ月振りに増加した。地区別にみると、県北地区で高速道路関連工事、白河地区で福島空港接続道路工



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

事、相双地区で海岸災害復旧工事が実施され増加した。

**木材・木製品** 8月の素材（丸太など）の入荷量は、18,007<sup>m</sup>（前年同月比8.8%増）、販売量は17,940<sup>m</sup>（同6.6%増）となり価格については保合いとなった。

製材品（合板など）の入荷量は2,437<sup>m</sup>（同20.3%減）、販売量は2,334<sup>m</sup>（同2.0%減）となり価格については供給過多などから製品の一部で下げている。

8月の木造率は、新設住宅着工戸数868戸のうち木造戸数は530戸となり61.1%（前年同月比15.1%減）となった。

**清酒** 10月の清酒移出数量は、1,584kl（前年同月比4.5%減）となり、6ヵ月連続して減少した。特定名称酒は459kl（同1.1%増）、一般酒は1,125kl（同6.7%減）となった。

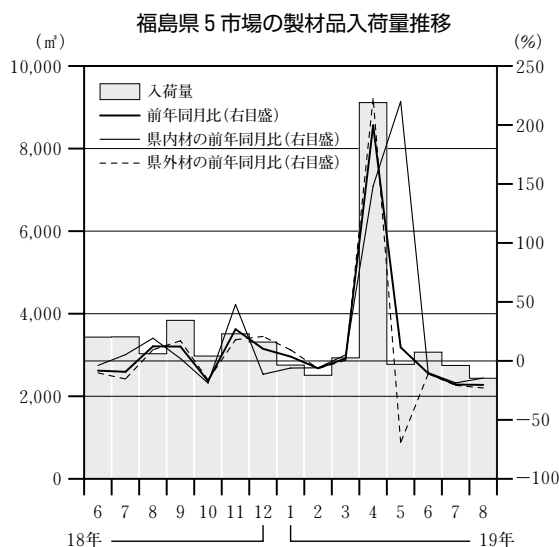
**合成繊維物** 10月のナイロンの生産は、ダウンジャケット（表地）向けを中心に前年並みの水準で推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に横這いで推移した。

**ニット** 10月のニットは、秋冬物向けの生産が一段落し、春物展示会用サンプル品、高級品を中心に前年並みの水準で推移した。

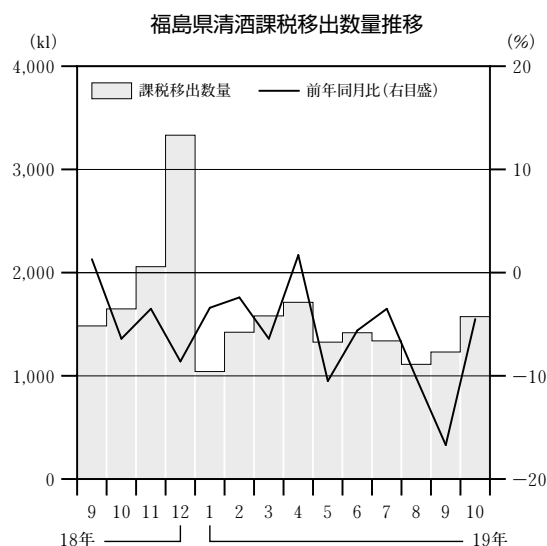
**大口電力** 10月の大口電力販売量は、580百万kw/h（前年同月比6.9%増）となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」が126百万kw/h（前年同月比8.6%増）、「非鉄金属」が97百万kw/h（同11.3%増）、「化学」が58百万kw/h（同6.1%増）、「輸送用機械」が63百万kw/h（同9.4%増）、「一般機械」が32百万kw/h（同2.9%増）となった。

## —— 企 業 倒 産 ——

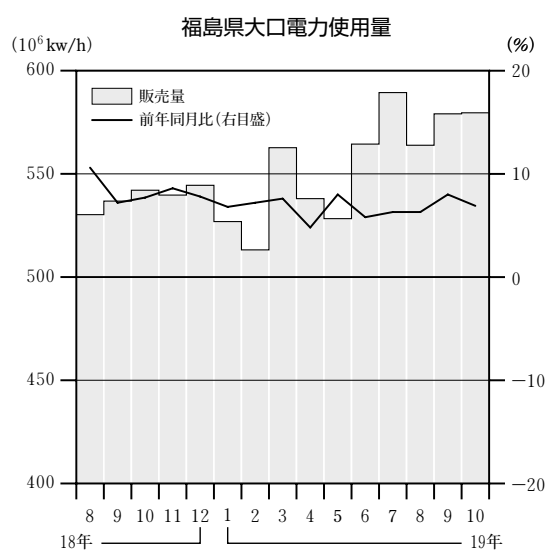
**企業倒産** 10月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数10件（前年同月比9.1%減）、負債金額は53億36百万円（同32.3%減）となった。倒産



（資料：福島県農林水産部）



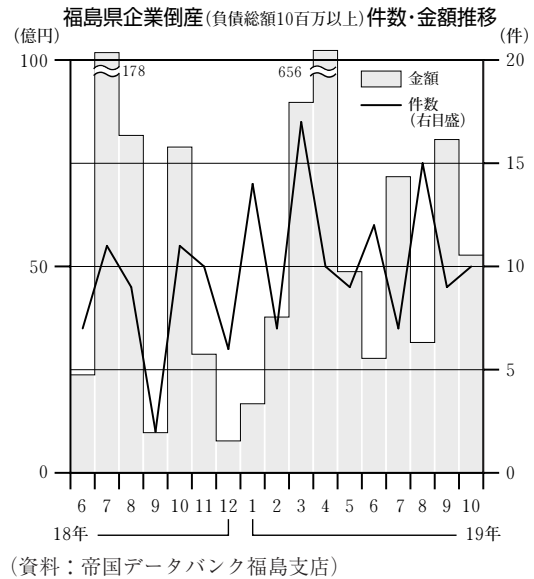
（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）

状況は倒産件数が再び2桁台になり、倒産金額も前月比ならびに前年比では減少したものの依然高止まりの金額となった。倒産原因は、受注・販売不振が9件、設備投資の失敗が1件であった。業種別では、製造業4件、サービス業2件、建設業、卸売業、小売業、不動産業がそれぞれ1件であった。地区別では、県南、浜通りがそれぞれ3件、県北、会津がそれぞれ2件であった。

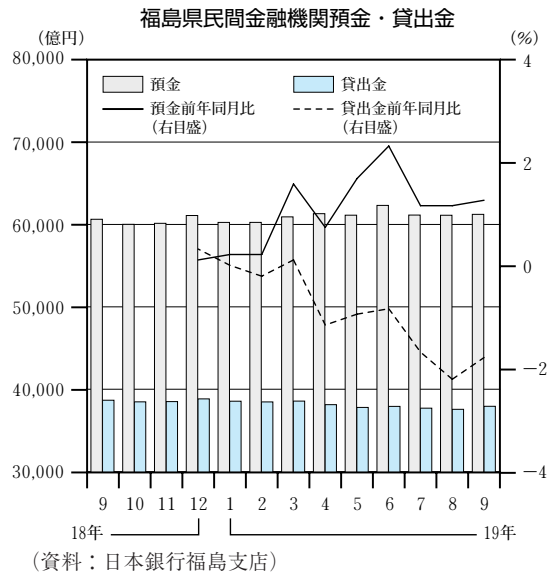
平成19年1月から10月までの累計で見ると件数が110件（前年同月比22.2%増）、累計負債金額が1,116億2百万円（同83.3%増）となり、県内の倒産状況は依然高水準で推移している。



## 金融動向

**資金需要** 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の9月末の預金残高は6兆1,326億円（前年同月比1.0%増）となった。貸出金残高は、3兆8,030億円（前年同月比1.9%減）となった。

**保証協会** 10月の保証承諾は、件数1,298件（前年同月比9.4%増）、保証金額124億6百万円（同11.2%増）となり、それぞれ6ヵ月ぶりに増加した。代位弁済は、件数68件（同33.3%増）、金額5億35百万円（同20.2%増）となった。



## 雇用動向

**雇用動向** 10月の新規求人数は14,174人（前年同月比10.6%増）、新規求職申込件数は9,813件（同3.9%増）といずれも増加した。新規求人倍率（季節調整済、パート含）は1.30倍と前月比0.05ポイント、前年同月比0.05ポイントそれぞれ上回った。また、有効求人倍率（季節調整済、パート含）は0.88倍と前月比ならびに前年同月比では変らなかった。

